|  |  |
| --- | --- |
| 令和2年度（2020年度）用 | 小学校保健用 |

|  |
| --- |
| 「新しい保健 ５・６」  **臨時休業明けの年間指導計画参考資料**  **（学校での授業と，学校での授業以外の場において取り組む学習活動の併用版）**  **【５年】　『けがの防止』** |

各学校の状況によって，年度当初に予定していた学習内容の指導を，本年度中に終えることが困難な場合に，学校における学習活動を重点化する際の参考資料としてご活用ください。そのうえでなお，学習内容を年度内に終えることが困難な場合は，内容の一部を次学年等に移して指導することも考えられます。各学校の状況に応じて，適切にご判断ください。なお，次学年等に移して指導する場合には担当教員間の引継ぎにご配慮ください。

令和2年（2020年）6月版

※単元ごとの配当時数，主な学習活動，評価規準などは，今後変更になる可能性があります。ご了承ください。

東京書籍

2章　けがの防止　第５学年　　教科書p.20-47　配当授業時数：５時間

　単元の取り扱い

◎指導順について

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 内容のまとまり（新学習指導要領） | 単元計画配当 | 指導順について |
| ①交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがとその防止 | 第１時～第４時 | 必ず単元の最初に取り扱う。第２時～第５時は順不同。 |
| ②けがの手当 | 第５時 | ①に続いて取り扱うことが望ましい。 |

◎学校の授業及び学校の授業以外の場での取り扱い

学習内容や学習活動に応じて，取り扱いを判断することが望ましい。指導計画例の「小単元名」「学習内容と活動」の欄に以下の記号を示す。なお，本単元においては，年度当初に5時間で計画していたものの，時数確保が困難な場合，学校の授業以外の場での学習を関連付けることにより，3時間で進めることも可能であることを示している。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 分類 | 学習内容や学習活動の別 | 時間数 |
| 学 | 教師による適切な指導が必要な内容や，話し合い・実習などが必要なもので，**学校での指導が望ましい**もの。 | ３ |
| ▲ | 学校での指導が望ましいが，学校の指導計画や実施できる時間数によっては，**学校の授業以外の場での学習が可能**なもの。 | ２ |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 単元（章）の目標 | けがの防止に関する課題を見つけ，よりよい解決に向けて考える活動を通して，交通事故，身の回りの生活の危険や地震などが原因となって起こるけがの発生要因や防止の方法，けがの悪化を防ぐための簡単な手当の方法などを理解できるようにする。また，けがなどの簡単な手当を行うことができるようにする。 | | |
| 単元（章）の観点別評価規準 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 交通事故，身の回りの生活の危険や地震などが原因で起こるけがの防止には，周囲の危険に気づくこと，的確な判断のもとに安全に行動すること，環境を安全に整えること，けがなどの簡単な手当はすみやかに行う必要があることを理解し，けがなどの簡単な手当を行っている。 | けがの防止に関わる事象から課題を見つけ，危険の予測や回避をしたり，けがを手当したりする方法を考え，それらを表現している。 | 学習活動に粘り強く取り組む中で，安全の大切さに気づき，けがの防止や手当についての学習活動に進んで取り組もうとしている。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 各時の学習活動に対応した観点別評価規準 | [第1時]　事故やけがの原因には，人の行動や周りの環境が関わっていることを，言ったり書いたりしている。  [第2時]　学校や地域でのけがを防止するには，身の回りに潜む危険の予測と的確な判断のもとに，危険を回避し安全に行動することや，環境を安全に整えておくことが必要であることを，言ったり書いたりしている。  [第3時]　交通事故を防止するには，身の回りに潜む危険の予測と的確な判断のもとに，危険を回避し安全に行動することや，環境整備，交通ルール作りが必要であることを，言ったり書いたりしている。  [第4時]　犯罪被害の防止には，周りの環境を点検し犯罪が起こりやすい危険な場所を避けること，すぐに助けを求めるなど的確な判断のもとに安全に行動することが必要であることを，言ったり書いたりしている。  [第5時]　けがなどの簡単な手当は，けがの重篤化を防ぎ回復を早めるため，すみやかに行うことが必要であることを，言ったり書いたりするとともに，簡単な手当ができる。 | [第1時]　身近な生活での事故やけがの原因について，課題を見つけ，その解決に向けて考え，それを説明したり伝え合ったりしている。  [第2時]　学校や地域でのけがの防止について，課題を見つけ，その解決に向けて考え，それを説明したり伝え合ったりしている。  [第3時]　交通事故の防止について，課題を見つけ，その解決に向けて考え，それを説明したり伝え合ったりしている。  [第4時]　犯罪被害の防止について，課題を見つけ，その解決に向けて考え，それを説明したり伝え合ったりしている。  [第5時]　けがなどの簡単な手当について，課題を見つけ，その解決に向けて考え，それを説明したり伝え合ったり，実践したりしている。 | [全時共通]　学習内容に関心をもち，よりよく学ぼうとする意欲をもって，学習に粘り強く取り組もうとしている。  [全時共通]　他者の考えも受け入れながら進め方を工夫改善するなど，自らの学習を調整しようとしている。 |
| 観点別評価の基本的な考え方と方法 | 知識および技能の習得状況について評価するとともに，他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念（原理や原則）等を理解したり，応急手当をしたりしているかについて評価する。  評価は，ノートなどの記録や小テスト，まとめの単元（章）テストなどを基にして，単元（章）を総合して行う（必ずしも毎時間に評価する必要はない）。 | 知識および技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかを評価する。  評価は，主にステップ2「調べる・解決する」およびステップ3「深める・伝える」の場面を中心に，発言の内容やノートなどの記録の内容，レポートなどを基に各時の資料を蓄積し，単元（章）を総合して行う。 | ①学習内容に関心をもち，知識および技能の獲得や思考力・判断力・表現力等を身につけるため，よりよく学ぼうとする意欲をもって，学習に粘り強く取り組もうとする側面と，②他者の考えも受け入れながら進め方を工夫改善するなど，自らの学習を調整しようとする側面から判断して，単元（章）を通して総合的に評価する。  評価は，①，②それぞれの側面から，または一体的に，各時の学習活動への取り組みや態度で特記すべきことなどを記録し，資料を蓄積して，単元（章）を総合して行う（必ずしも毎時間に評価する必要はない）。 |

【各時の目標および学習活動など】

●観点別評価の方法

［知識・技能］…ノートなどの記録や小テスト，まとめの単元（章）テストなどを基にして，単元（章）を総合して評価する。

［思考・判断・表現］…各時の中心活動（主にステップ2～3）で重点的に評価する。

［主体的に学習に取り組む態度］…学習活動への取り組みで特記すべきことなどを適宜記録し，資料を蓄積して，単元（章）を総合して評価する。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 目標 | 時数 | 学習内容と活動 | 評価の観点と方法 |
| (1)事故やけがの原因　（教科書p.21～24）　　学　▲ 　　★他教科との関連：道徳 | | | |
| ・交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがは，人の行動や環境が関わって発生することを理解できるようにする。 | 1 | ステップ1　問いについて考える活動を通して，事故やけがの原因に気づき，課題を見つける。▲  ステップ2　教科書の事例から，事故やけがが起こる原因を考える。学  ステップ3　学習したことを基に，教科書の事例から，事故やけがが起こる原因を，人の行動と環境に分けて考える。学  ステップ4　学習をまとめて，毎日の生活や，これからの学習に生かせることを考える。▲ | ［知識・技能］  記録，小テスト・単元（章）テストなど  ［思考・判断・表現］  発言，記録  ［主体的に学習に取り組む態度］  観察，記録 |
| (2)学校や地域でのけがの防止　（教科書p.25～28）　学　▲ ★他教科との関連：道徳 | | | |
| ・学校や地域で起こるけがの防止には，周囲の危険に気づくこと，的確な判断のもとに安全に行動すること，環境を安全に整えることが必要であることを理解できるようにする。 | 1 | ステップ1　問いについて考える活動を通して，学校や地域での事故やけがの原因に気づき，課題を見つける。▲  ステップ2　教科書の事例から，けがを防止する方法を考える。学  ステップ3　学習したことを基に，教科書の事例から，潜んでいる危険を予測し，回避する方法を考える。学  ステップ4　学習をまとめて，毎日の生活や，これからの学習に生かせることを考える。▲ | ［知識・技能］  記録，小テスト・単元（章）テストなど  ［思考・判断・表現］  発言，記録  ［主体的に学習に取り組む態度］  観察，記録 |
| (3)交通事故の防止　（教科書p.29～32）　学　▲ ★他教科との関連：社会，道徳 | | | |
| ・交通事故の防止には，周囲の危険に気づくこと，的確な判断のもとに安全に行動すること，環境を安全に整えることが必要であることを理解できるようにする。 | 1 | ステップ1　問いについて考える活動を通して，交通事故の原因に気づき，課題を見つける。▲  ステップ2-1 教科書の二つの資料から，交通事故を防ぐために気をつけることを考える。学  ステップ2-2　教科書の事例から，交通事故の危険を予測し，回避する方法を考える。学  ステップ3　学習したことを基に，交通事故につながりやすい人の行動と環境の視点から，交通事故を防止するための環境整備について考える。学  ステップ4　学習をまとめて，毎日の生活や，これからの学習に生かせることを考える。▲ | ［知識・技能］  記録，小テスト・単元（章）テストなど  ［思考・判断・表現］  発言，記録  ［主体的に学習に取り組む態度］  観察，記録 |
| (4)犯罪被害の防止　（教科書p.33～37）　学　▲ ★他教科との関連：社会，道徳 | | | |
| ・犯罪被害の防止には，周囲の危険に気づくこと，的確な判断のもとに安全に行動すること，環境を安全に整えることが必要であることを理解できるようにする。 | 1 | ステップ1　問いについて考える活動を通して，犯罪被害の危険に気づき，課題を見つける。▲  ステップ2　教科書の二つの資料から，犯罪被害が起こりやすい場所や状況を考える。学  ステップ3　学習したことを基に，教科書の二つのイラストを比較し，犯罪被害が起こる危険を予測し，回避する方法を考える。学  ステップ4　学習をまとめて，毎日の生活や，これからの学習に生かせることを考える。▲ | ［知識・技能］  記録，小テスト・単元（章）テストなど  ［思考・判断・表現］  発言，記録  ［主体的に学習に取り組む態度］  観察，記録 |
| (5)けがの手当　（教科書p.41～46）　学　▲ ★他教科との関連：道徳 | | | |
| ・けがなどの簡単な手当は，すみやかに行う必要があることを理解できるようにする。  ・実習を通して，けがの簡単な手当の方法を理解し，行うことができるようにする。 | 1 | ステップ1　問いについて考える活動を通して，けがをしたときの手当の必要性に気づき，課題を見つける。▲  ステップ2-1　教科書の資料などから，けがをしたときの判断の仕方を調べる。学  ステップ2-2　教科書の資料などから，軽いけがをしたときの適切な手当の方法を調べ，説明する。学  ステップ3（実習）　けがなどの簡単な手当の正しい方法を理解し，実際に行う。学  ステップ4　学習をまとめて，毎日の生活や，これからの学習に生かせることを考える。▲ | ［知識・技能］  実習の記録，記録，小テスト・単元（章）テストなど  ［思考・判断・表現］  発言，記録  ［主体的に学習に取り組む態度］  観察，記録 |